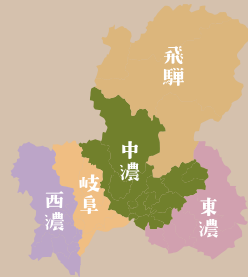


水土里 [midori] をめぐる

西濃エリア



岐阜県には、飛騨山脈などの山岳地帯から濃尾平野などの低平地域まで変化に富んだ地形が広がっており、さまざまな農業が営まれています。この中には、めぐまれない営農条件であっても工夫を凝らし、今日の農業・農村の姿を築いてきた古い歴史が刻まれているものがあります。また、懐かしい「日本の原風景」である棚田地域もあり、美しい風景が見られるとともに、祖先の叡智を守り伝えています。

岐阜県では、こうした農業・農村の魅力を知らていただき、美しい姿のまま将来へつないていくために「ぎふ水土里のプロジェクト」を展開しています。「水土里」の「水」は清い流れの農業用水、「土」は緑豊かな農地、「里」は豊かな自然や農村風景を表現しており、岐阜県の豊かな自然と農業・農村を守り伝えていくという想いが込められています。

このプロジェクトの一つとして、建設から50年程度を経過した歴史ある土地改良施設や現在も地域振興のため活用されている施設をまとめたガイドブックを作成しました。

ガイドブックを片手に、魅力あふれるぎふの「水土里」をめぐるみましょう！

お問い合わせ

西濃農林事務所
揖斐農林事務所

大垣市江崎町422-3
揖斐郡揖斐川町上南方1-1

0584-73-1111(内線397)
0585-23-1111(内線431)

発行元

岐阜県農政部農村振興課

岐阜市藪田南2-1-1 058-272-1111(内線3173)

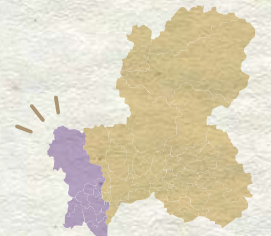


ぎふ歴史的
土地改良施設
ガイドブック

水土里 [midori] をめぐる

vol.
2

西濃エリア



清流の国ぎふ



水土里をめぐる 西濃エリアMAP

一緒に
めぐろう！

谷汲山華厳寺

798年に創建され、山号と寺号を醍醐天皇より賜った名利寺院として、1200年余の歴史を誇ります。「西国三十三所観音霊場」の第三十三番札所であるため「結願・満願のお寺」として知られ、春には桜、秋には紅葉の名所として賑わいます。



2 谷汲池

岐阜関ヶ原古戦場記念館

天下分け目の「関ヶ原の戦い」の決戦地に、2020年にオープンした体験型施設。貴重な史料展示のほか、戦いを俯瞰できる床面スクリーンや、光・音・振動・風で戦いを体感できる大迫力シアター、古戦場を360度見渡せる展望室など、見どころ満載の注目スポットです。



養老公園

滝の水が酒に変わったという養老孝子物語の舞台となった名瀑「養老の滝」を中心とした養老山麓に広がる都市公園です。歴史や自然が感じられる散策路が整備され、公園内の「養老天命反転地」では、不思議なアート体験ができます。



西濃エリアの 水土里をめぐろう！

西濃エリアでは、人々の暮らしと深く結びついている歴史ある農業用水、農地、自然や農村風景が守られています。

1 飛鳥川用水

江戸時代末に着手したと伝えられていますが、当時の岩盤をくり抜いた水路トンネルは漏水が激しかったため、用が果たせなかったと言われています。大正時代になってから難関のトンネル工事が完成。現在は新しくなったトンネルを流れる清流が、今なお農地を潤し続けています。



2 谷汲池

大正4(1915)年に築造された当時は、ため池は満水せず、通水の3分の2が漏水となり、少ない水を奪い合うこともありました。地元で改修を行い、昭和6(1931)年には当時の農林大臣に陳情書を提出。今では受益農地の重要な水源として利用できるようになりました。



3 池寺池

関ヶ原合戦の開戦地として史跡にも指定される梨の木川の両岸に開けた農地が受益地です。江戸時代以前に相当の歳月と人海戦術によって築造された堤長約160m、堤高約10mのため池で、築造から約350年を経過した昭和初期に抜本的な改良工事がなされています。



4 十九女池 つづらいけ

関ヶ原合戦で活躍した本田忠勝の陣跡が受益地内にあります。この池には、大蛇の化身であるお姫様が横笛を吹きながら若者が居る家を探し、お椀を貸してもらっていたという「龍女伝説」が残っています。絶滅危惧種のヒメコウホネの自生地でもあり、散策も楽しめます。



5 戦国ロード

天下分け目の戦いが繰り広げられた地、関ヶ原町の国道365号線を起点とし、輪中地帯独特の水郷景観が一望できる海津市の木曾三川公園を終点とする延長約43kmの路線のうち、関ヶ原町を縦断する約3kmが「戦国ロード」として親しまれています。



KAIBARA RICE TERRACES



貝原棚田

P6へ▶

さざれ石公園

さざれ石とは、長い年月の間に小さな石が凝結してできた巨石です。学名を石灰質角礫岩といい、伊吹山の麓ではさざれ石が多数見られます。この公園では、国歌「君が代」に詠まれた岐阜県指定天然記念物のさざれ石を見ることができます。



さざれ石公園

岐阜関ヶ原古戦場記念館

池寺池

4 十九女池

5 戦国ロード

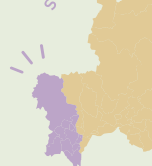
牧田川用水

P4へ▶

MAKITAGAWA AGRICULTURAL WATER



SEINO AREA



牧田川用水

MAKITAGAWA AGRICULTURAL WATER



昭和9年の
完成当時の姿が
残されているよ！

大垣市の
「景観遺産」
認定！

牧田川は、伊吹山地と養老山脈を源とする一級河川です。下流にある扇状地は、河川の流れに運ばれた肥沃な土が積もる一方で、大雨が降ると洪水が起り、川が氾濫するため、うまく土地が活用されませんでした。しかし、奈良時代以降は次第に集落ができ、人々は田を耕して稲作を始めました。牧田川沿川の農地は、河川の流水や豊かな自噴水を活用していましたが、雨が降らない渇水期には用水不足となり、たびたび用水争いが起こりました。また、田植え前には住民総出で大きな石を積んだり、竹で編んだ籠に石を詰めた「蛇籠」を並べたりして川に堰を作り、水を引いていましたが、豪雨が堰が流されてしまうなど、水を得るための苦労が絶えませんでした。そこで、用水を安定取水できるように昭和9（1934）年に建設されたのが、「牧田川用水頭首工（広瀬ダム）」だったのです。

牧田川用水の歴史

大正15(1926)年に西濃地域の1市7郡の関係水利組合は、牧田川から安定取水ができるように、河川の改修を県に請願します。そして、昭和6(1931)年、ついに上流の広瀬橋から下流の烏江まで8.3kmの牧田川上流改修事業が始まりました。昭和9(1934)年に建設された長さ200m、高さ1.8mの牧田川用水頭首工は、現在も下流の農地に農業用水を安定して供給しているだけでなく、防火用水や生態系を守るためなど地域用水として活用され、地域の人々に「広瀬ダム」として親しまれています。



牧田川上流用水工事の青写真



魚類が遡上するための呼水式魚道

牧田川用水の見どころ

牧田川用水頭首工の建設当時は、近代的な大型建設機械もなく、川の仮閉め切り、岩盤の掘削、コンクリート打設に至るまで、すべてが人力で施工されましたが、その技術力の高さを証明するかのよう、現在まで幾度の洪水にも耐え、昔のままの姿を残しています。



取水や洪水の逆流防止などのため、水路には水門や樋門が設けられています

牧田川用水な人

現在、牧田川用水を守っている牧田川用土地改良区の組合員の長澤さんと吉田さんは「水がなければ稲は育てられない。昔から水の確保を命綱として、広瀬ダムを完成させた先人の知恵を大切に守っていきたい」と話します。



牧田川用土地改良区
理事長 長澤博さん(右)
事務局長 吉田悟さん(左)

牧田川に棲む生きもの



牧田川にはアユやアマゴ、ウナギなどのほか、国の天然記念物に指定される希少なネコギギも生息しています。牧田川用水頭首工には、魚類が遡上できるように呼水式魚道が設けられています。

貝原棚田

KAIBARA RICE TERRACES



「ぎふ棚田
21選」
に認定!

江戸時代中期に
作られた300年
以上続く棚田!

揖 斐郡揖斐川町の春日地域にある貝原棚田は、旧春日村寺本集落の人々によって約300年前の江戸中期に開田されました。標高965mの鎗ヶ先の麓に広がる棚田は、168枚の農地からなり、中央にはシンボルのように大きな杉がそびえています。ほとんどの棚田が同程度の小さな段差で、等高線の形状に合わせて地形になじんだ農地が段々に作られています。棚田を形成する石積みの高さが低いため、棚田の上側から全体を一望することができません。山あいの中に緩やかに連なる農地が美しい景観を作り出すこの棚田は、平成21(2009)年に、西濃地域で唯一「ぎふ棚田21選」に選ばれました。また、平成23(2011)年にはこの棚田で耕作している地元農家や担い手、NPO法人などが「貝原棚田保存会」を立ち上げ、郷土の大切な歴史遺産として棚田の保全に努めています。

棚田の役割

- 1 雨水を田に一時的にためて下流域の洪水を防ぐ
- 2 蓄えた水が田にゆっくりしみ込みきれいな地下水を増やす
- 3 澄んだ水と昼夜の寒暖差を活かしておいしいお米ができる
- 4 自然いっぱいの田はいろんな生きものすみかになる
- 5 四季折々の美しい景観をつくる



山や丘などの斜面に階段上に造られる棚田は大切に守るべき「日本の原風景」です!

貝原棚田のシンボル



棚田の中央には、樹齢推定700年という立派な杉が鎮座しています。この大杉は人々から「おさんのうさん」の通称で親しまれてきました。春には幹や枝に巻きついたフジヅルが美しい花を咲かせ、棚田の中にそびえる薄紫のフジに彩られたその大杉の姿が見る人の心を癒してくれます。

貝原棚田を守る

貝原棚田保存会の会長を務める新川さんは、現在16枚5反の農地を耕し、毎年約20俵の「ひとめぼれ」を収穫しています。「棚田は稲を手で植えて、手で刈るところに楽しみがあります。山から引く水もきれいで、寒暖差があるため、お米が甘くなる。昔ながらの稲架(はさ)掛けをしてゆっくり天日で乾燥させているので、さらにお米に甘みが出て美味しくなるんですよ。」



束ねた稲を棒にかけて干す稲架掛け

貝原棚田の休耕地で農業を体験してみたい方はご連絡ください!

貝原棚田保存会
会長 新川勝重さん

